プレスリリース

平成２２年８月６日

独立行政法人　森林総合研究所四国支所

公開講演会の開催について

「めぐみの森、にぎわいの森、命のつながりの森　－森林の生物多様性を考える－」

ポイント

- 「生物多様性」とは、遺伝子、種、生態系など全てを包括する言葉で、地球上の生物の多様さと自然の営みの豊かさを指す。
- 森林生態系は野生動物、昆虫、微生物などの生息・生育の場や種・遺伝子の保管庫として、生物多様性の保全にとって最も重要な役割を担っている。

概要

森林、農地、湿地、河川等の様々な生態系は、植物、動物、微生物、土壌、水等の多様な構成要素が、人間の継続的な営みによる働きかけを含め、様々なつながりを形成することによって成り立っています。

これら生態系は全体として安定した地域固有の自然環境を形成し、気候の安定化、洪水等の調節、有用な資源の供給、野生生物の生息・生育環境の確保等に寄与する一方、生物の多様性が失われることは、わたしたちの生存そのものを脅かすことにつながるのです。

今年は、国連が定める「国際生物多様性年」であり、日本で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催される節目の年です。

独立行政法人森林総合研究所四国支所と国立大学法人高知大学では、この機会に森林における生物多様性のもつ意義と意味を考えてもらうことを目的として、別紙により公開講演会を開催いたします。

当日は是非取材にお越しいただき、誌面、番組等でご紹介いただければ幸いです。

日時：平成２２年９月８日（水）１３時３０分　～１６時３０分
場所：高知大学 朝倉キャンパス メディアの森（総合情報センター中央館）

問い合わせなど

独立行政法人　森林総合研究所四国支所長　今冨 裕樹
広報担当者：独立行政法人　森林総合研究所四国支所　連絡調整室長　杉本 育己
Tel：088-844-1121（代）　Fax：088-844-1130
URL：http://www.ffpri-skk.affrc.go.jp/

この資料は、高知県政記者室および日本農業新聞四国支局へ配布しています